



R7年10月10日

文責：校長

「自主、自立、自信」子供のやればできるの体験を支える学校づくり

魅せよう！植柳魂

学校の大きなイベントの一つともいえる運動会を、今月25日（土）に行います。その練習を1日（水）から始めました。

コロナ禍以前は運動会是一日を通して、保護者や地域の方々に子供たちの成長を披露する場として長年続いてきましたが、コロナウイルス感染拡大の収束を境に、競技は午前中で終了するという形がスタンダードになりました。

みんなで協力 やればできる!!

時間は短縮されても保護者やご家族、地域の方々にとっては子供たちの成長を確認すること大切な行事であることは言うまでもありません。その運動会を意義あるものにするために、運動会を通じて学ぶことを確認したいと思います。

運動会を通じて学ぶことは次の通りです。

- 1 運動の楽しさを味わう
- 2 人との関わりを学ぶ
- 3 集団行動を学ぶ
- 4 責任感を身に付ける

運動の楽しさを味わう

運動会は、運動が得意な子どもがさらに運動が好きになることとはもちろん、運動が苦手な子どももその楽しさを知る場です。運動は嫌いだけど運動会は好きという子どももいると思います。運動が苦手が子どもは、かけっこで負けたり、失敗したりして楽しさを知る機会がないのではないかと心配がちなことです。しかし比べる相手は他の子どもではなく、過去の自分です。植柳小はすべてに全力でチャレンジする姿を支援し、その力を伸ばします。

また、「去年より速く走れた！去年よりうまくダンスができた！」など、過去の自分より成長していることを感じて、運動の楽しさを味わわせていきます。そして、運動会が終わって子どもたちから「楽しかった！」という声をたくさん聞きたいと思っています。

人との関わりを学ぶ

子どもにはありますが、勝つて相手をバカにしたり、負けたら「ズルされたから負けた」などと嫌味を言ったりすることがあります。

これではスポーツを通じて友情を育むどころか、険悪な人間関係しか残らなくなってしまう。勝利をめざすことも大切ですが、勝負事はどちらかが勝ち、どちらかが負けるわけですからお互いの健闘をたたえ合う気持ちで学ぶ場が大切です。また、フェアプレーも人との関わりで大切になります。ズルさで負けたら、健闘をたたえ合う気持ちにはなれません。正々堂々と勝負したうえで勝利にこそ価値があることを学ぶ場でもあります。

「集団行動」を身に付ける

団結力や連帯感を学ぶことができます。高学年がリーダーシップをとって動く応援合戦もそうです。みんなで声を出し、体を動かすことでチームの一員であるという自覚と誇りを持たせる意味があると思います。

運動会は練習の時から集団行動の連続です。集合時間を守ったり、全員で駆け足で素早く移動したり…。普段生活していても集団行動の必要性を感じていないかもしれませんが、それは無意識に集団行動しているからなのです。

集団行動をするためには協調性が必要です。協調性を身に付けるために、学校生活や運動会を通じて集団行動を学ばせていきます。

「責任感」を持たせる

最後に、高学年になると運動会の運営にも携わります。与えられた仕事をやりとげることによって責任感や自尊心を育むことができます。「運動会が終わって急に成長した」という話をよく聞きますが、それは運動会を成功させるために自覚と責任を持つて取り組むことができた証だと思います。

植柳小学校では、以上のような観点で運動会に向けて子供たちを指導していきます。運動会練習で疲れて帰ってくることもあるかと思いますが、ご家庭での励ましと応援をよろしくお願いいたします。



赤団応援団の自己紹介と決意表明



白団応援団の自己紹介と決意表明

